

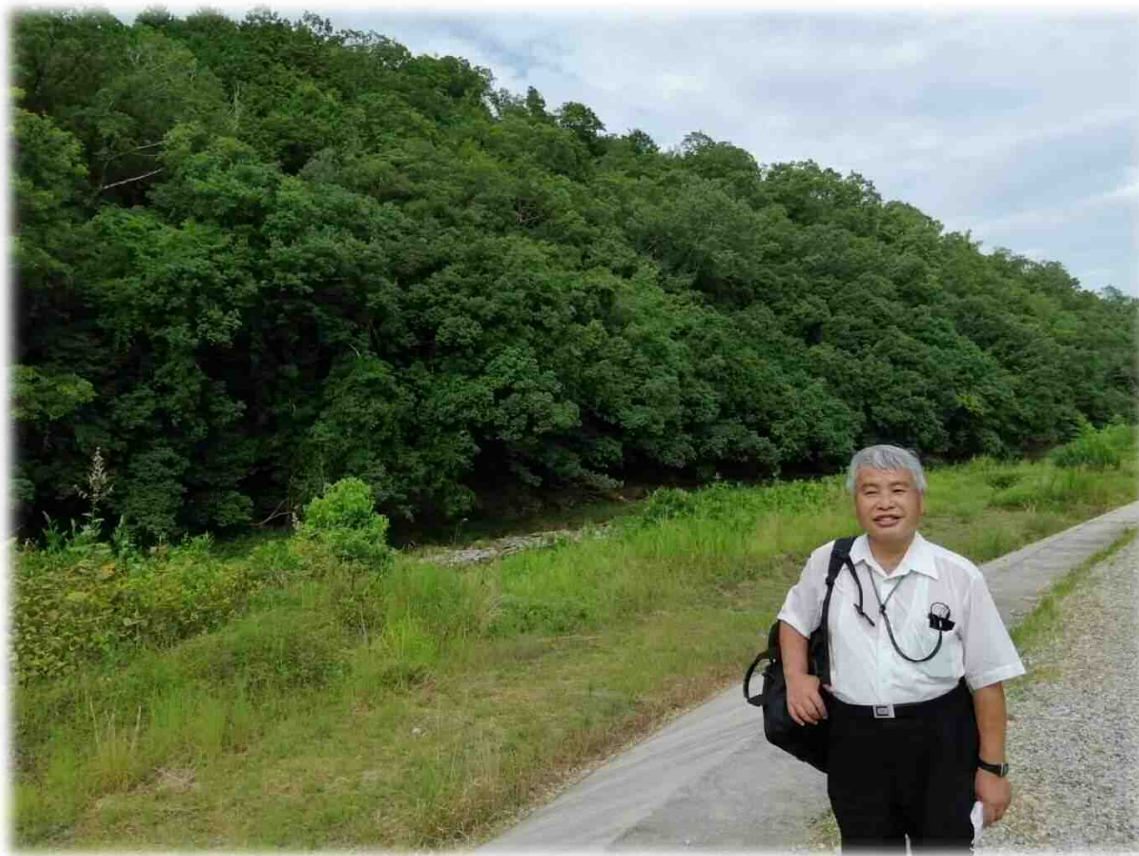
NPO 法人 都市災害に備える技術者の会

ニュースレター issue 57



都市災害に備える技術者の会事務局：〒651-1432 兵庫県西宮市すみれ台3-1（太田ジオリサーチ内）
TEL:078-907-3120 FAX: 078-907-3123 e-mail: office@toshisaigai.net http://www.toshisaigai.net

新入会員の自己紹介 辻 謙一 さん



55歳以上が法律上高齢者というようですが、すでに8年前に通過し、渦中真っ盛りですが、この度、入会させていただきました、辻謙一と申します。

建設構造物の長寿命化も当然に必要ですが、自分自身の軽量化と長寿命化も必要と思い、最近、足で稼ぐフィールドワークとして、多くの被災現場や土木遺産巡りをしていますが、より多くの先輩の皆様方から御指導をいただき、さらに広い活動フィールドを求めたく、入会を決意しました。

昭和32年3月12日生まれの63歳で、吹田生まれで大阪市東住吉区在住、堺市内在住を経て、京都府庁の土木職に就職することができました。

京都府に入庁後は、舞鶴勤務が計5年・園部勤務が計7年など脆い地山が多く、堤防が脆弱で災害の多い地域を中心に勤務していました。土木の道を選びましたのは、地図や鉄道が子供の頃から

の関心ごとで、地図に残るような大きな仕事をしてみたいと思ったからです。しかし、入庁後は河川敷の不法占用の撤去指導、違法建築の是正指導、廃川敷地の処理、入札契約制度の改善など、「地図に残らない仕事」を中心に、地域の住民の皆様や受注者の皆様方との協議の業務とともに数多くの災害復旧工事にも携わっていました。とても「技術者」と言える状況でもなく、単なる「技術系職員」のまま怠慢に定年を迎えてしまいました。

舞鶴の地質につきましては、見た目は硬くても、水を含むと一気に、もろく崩れてしまう蛇紋岩には驚きました。道路の改良復旧を行ったのですが、蛇紋岩に出会い、地滑りが発生し、拡張した道路の盛土部分が、センターライン付近で段差30cm、延長80mにわたり陥没変状を起こしてしまったのです。幸いにも深礎杭を設置することにより、変状は止まりましたが、地学の知識があれば、未然に別の処置を取れたかも知れません。土木工事は、積算上は、軟岩、硬岩などと区分されていますが、もっと地質の区分も加味した設計が必要と思いました。

河川につきましては、別の思い入れがあります。定年前の3年間は、南丹土木事務所で亀岡盆地の桂川などを管理していましたが、この地域には堤防の天端高を、他より敢えて低くされている「霞堤」が11か所もあります。

なぜ、「霞堤」なのかと考えましたが、現在、国土交通省が取り組んでおられる「流域治水」の原点ということで、河川沿いの土地に遊水機能を持たせることで下流域への流量を軽減させるだけでなく、この盆地での浸水時間を敢えて緩慢にすることにより、堤防の決壊による逃げる暇もない瞬時の濁流の押し寄せを防ぐ機能もあると思いました。

元々河川堤防は、歴史的には、流路が網目状であったものを、耕作地を作り、豊かな食生活を送るために、流路を堤防の中に封じ込めたものです。昔は、何も街や田畑を守るために堤防が作られたものではありません。そして、当然に浸透しやすい砂礫層主体の「旧河道」が今でも各地に沢山残っています。この場所が豪雨時の堤防の最大ネック箇所になり、堤防の法尻から10mも離れた農地において、豪雨時に、水や砂が噴き出している事例も目にして大変驚きました。

人的災害を発生させないためには、常に、堤防など建設構造物の豪雨時での脆弱な箇所を古地図、地学的視点、また、地域の古老から聞き取り調査し、これを行政、市民が共有し、常日頃からの点検、迅速な維持管理、管理台帳の作成が不可欠だと思っています。

また、災害が発生しそうになれば、「いつ」、「どの場所に」、「誰から誰への連絡」で市民が安全に避難行動に移すのかということが、極めて大切と思っています。災害が発生する前の段階から「連絡系統の一元化」、「連絡内容は必ず書面で記録して関係者全員で情報共有する」ことについての各団体合同での定期的な訓練が不可欠だと思います。

災害により、もうこれ以上人命を落とされることがないように、頑張ってみようと思いますので、皆様方の御指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

写真解説) 場所は京都府南丹市園部町横田地区の一級河川園部川右岸でございまして、平成25年の台風18号により決壊しました漸弱な堤防を、定規断面として復旧した現場でして、退職後、初めて令和2年の8月に訪問した時の写真です。

この決壊により、床上浸水99戸、床下浸水78戸の被害がでましたが、人的被害は、危機的状況の中でしたが発生しませんでした。

WG活動はZOOMミーティングで行っています

今年の3月ごろから本格的に始まった、新型コロナウイルスのため、会員が集まってワイワイ・がやがや話し合っていたWG活動ができなくなりました。いつまでも終息の気配がないため、5月に予定していた京大防災研の釜井俊孝先生の防災講演会も、いったん中止せざるを得なくなりました。

7月の総会もWEB併用方式で行いましたが、その後WGの例会をZOOMを使ったWEBミーティングで実施しています。不慣れなところがありましたが、毎回少しずつ上達して行っています。

現在は、原則として毎月最終月曜日の18:30~21:00(終わりの時間はイレギュラーです)に実施しています。ZOOMミーティングの利点は、地理的に遠くにいる人も簡単に参加できることです。

今後、防災講演会もZOOMミーティングで実施することも検討中です(ただし、現在の契約では100人が限度です)。

12月は最終月曜日が年末となることから、1回飛ばして、1月25日(月)18:30~21:00の予定です。参加ご希望の方は、[事務局](office@toshisaigai.net)までメールでご連絡ください。ちなみに前回(11月30日)の議題は下記のようなものでした。

<p>3 議 題:</p> <p>▼前回第84回WG-D開催内容の確認</p> <p>第一部 重点的に取り組むべき課題についての情報提供、意見交換 など (特定課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「大規模盛土造成地問題」について WG-C(太田・廣野・北) ○最近の動向について (継続課題) ●「地区防災計画」について ○情報提供と今後の進め方 ●その他 ・「プロボノ」(前回に出されたKW)について <p>第二部 会員の取組み紹介や今後の活動についての情報提供、提案 など</p> <ul style="list-style-type: none"> ●奈良県下での活動について(第4回) ○前回に引き続き議論 ・「安全・安心まちづくりアドバイザー」の登録申請 (松川、伊藤) 	<ul style="list-style-type: none"> ・広陵町危機管理監との協議と今後の進め方(伊藤) ・田原本町へのアプローチ (柏田) ●「自治体災害対策全国会議」の関連した報告 テーマ『自治体や地域の災害対応力を強化する』 ●「情報発信」について ○一年のふりかえり 「発信」の現状と課題 ○ニューズレター発刊に向けて ●特定地域における事例紹介と具体的な動き、連携・関与の可能性 ●防災講演会の進め方についての提案 Zoomのウェビナー機能を使った講演回開催について(太田) 試行(運用テスト)に向けて 日程(予定)、実施方法、体制など <p>第三部 雑談(任意参加) オンライン飲み会もあり? ○参加者、それぞれのトピックス、情報提供(自由気ままに)</p>
---	--

事務局 だ よ り

- ◆ニューズレターのバックナンバーは、ホームページ(http://toshisaigai.net/newsletter/newsletter_index.html)にアップロードしています。
- ◆WG活動の例会の案内は、ホームページにも掲載しますので、ご興味のある方は参加してください。
- ◆2019年度会費の納入がまだの方は、納入をよろしく願いいたします。(正会員5000円です)すでに、会費を振り込まれた方は、ありがとうございます。
郵便局 00990-1-162816 加入者名 都市災害に備える技術者の会
三井住友銀行 藤原台支店 普通預金 7566003 特定非営利活動法人 都市災害に備える技術者の会
(2年間連続で未納の場合、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。)
- ◆住所変更・メールアドレス変更等はできるだけ早く事務局にお知らせください。
書式等は、ホームページ <http://toshisaigai.net/join/join.htm> にあります。
- ◆メーリングリストが届かない方は、事務局までお知らせください。またメーリングリスト不要の方は、毎月初めに届くメーリングリスト備忘録に従って登録を外してください。
- ◆研修会講師の心当たり、あるいは研修内容の希望がありましたら、事務局(office@toshisaigai.net)までお知らせください。
- ◆ニューズレターの原稿を随時募集いたします。お気軽に事務局までお送りください。